

ルカによる福音書4章1節 「御霊に満たされるイエス」

1A 模範としてのイエス

2A 御霊に満たされたイエス

1B 霊的に造られた人

2B 御父との交わり

3B 罪の前のアダム

1C 霊的な死

2C 新しい誕生

3C 御霊による悟り

3A 御霊に導かれたイエス

1B 御霊に導かれる神の子ども

2B 禁じられる御霊

3B 霊の戦い

4A 御霊の力を帯びたイエス

1B 主への奉仕

2B 肉による完成

5A 聖霊の待望

本文

ルカによる福音書4章を開いてください、午後に4章全体を一節ずつ見ていきますが、今朝は1節を中心に見ていきたいと思います。「さて、イエスは聖霊に満ちてヨルダンから帰られた。そして御霊によって荒野に導かれ、」

1A 模範としてのイエス

私たちは前回の学びで、イエス様が人々の中に来てくださったところを見ました。ヨハネが、バプテスマを授けているけれども、後から来る方は、私が履き物のひもを解く資格もないほどだ、と証言しました。それにも関わらず、イエス様は民と共にバプテスマを受けに来られたのです。そしてイエス様の系図がありました。それはアダムにまでさかのぼる系図であり、確かにイエス様は、女から生まれた者の一人として来られたのだ、ということです。つまり、イエス様は私たちの間に来られて、同じようになられて、それで私たちが倣い従う、お手本になられたということです。

イエス様は、「わたしが行ったように、このようにしなさい」と言いつけられたことが何度かありました。弟子たちの足を洗われた後に、「ヨハ 13:15 わたしがあなたがたにしたとおりに、あなたがたもするようにと、あなたがたに模範を示したのです。」と言われました。互いに仕えなさいと、ただ教えられただけでなく、その模範を示されました。また、「15:12 わたしがあなたがたを愛したように、

あなたがたも互いに愛し合うこと、これがわたしの戒めです。」とも言われました。互いに愛し合いなさいと上から目線で教えたのではなく、ご自身が愛して、それで手本にして従うことができるようにしたのです。そして、迫害を受けているキリスト者たちにペテロは、こう励ましました。「Ⅰペテ 2:21 キリストも、あなたがたのために苦しみを受け、その足跡に従うようにと、あなたがたに模範を残された。」

2A 御霊に満たされたイエス

そして、イエス様は地上での生涯で、もう一つの模範を示されました。神の御霊に満たされて歩むということです。「**イエスは聖霊に満ちてヨルダンから帰られた。**」とあります。

1B 霊的に造られた人

人が神の霊に満たされて歩むというのは、人として最も自然な姿であります。「創 2:7 神である主は、その大地のちりで人を形造り、その鼻にいのちの息を吹き込まれた。それで人は生きるものとなった。」人というのは、そもそもが神の息、すなわち霊を受け取って生きている存在です。ですから、神の御霊に満たされているというのが正常であり、そうでないのは異常です。

しかし、そのように私たちには感じません。なぜならば、人が元来の姿から損なわれてしまったからです。本来は、神の御霊が自分の主となっており、支配しておられるはずなのですが、人はそこから落ちてしまったので、肉の欲望が支配するようになってしまいました。

2B 御父との交わり

ローマ 8 章 15 節には、「この御霊によって、私たちは「アバ、父」と呼びます。」とあります。御霊に満たされるとは、父なる神とこのように親しい関係を持っていることを意味します。「ヨハ 4:23 しかし、まことの礼拝者たちが、御霊と真理によって父を礼拝する時が来ます。今がその時です。」私たちは、祈りの中で、賛美の中で、そして日々を歩んでいる中で、父なる神とそのような親しい関係を持っているでしょうか？そこでイエス様が、その模範を示されたのです。聖霊がイエス様の上に向かって来られた時に、天から声がして、「あなたはわたしの愛する子、わたしはあなたを喜ぶ。」ということでした。使徒ヨハネは、福音書の中で何度となく、イエス様が父との親しい関係を説明している文章を残しています。

3B 罪の前のアダム

1C 霊的な死

今、人がそのようになっていないのは、初めの人、アダムを見れば分かります。アダムこそが、神の息を吹き込まれて生きる人となりました。ところが、取って食べてはならない、食べれば必ず死ぬと言われた、善悪の知識の木から取って食べました。そこで死んだかということ、肉体は死んでいません。ところが、主がその中をそよ風の中で歩き回っておられたら、アダムとエバは木の中に身を隠したのです。そうです、そのような親しい交わりができなくなったのです。肉体は生きていま

すが、御霊にあって神と交わっていない状態が生まれました。これを霊的に死んでいると言います。

それ以上、人の霊は神から離れているため、その思いは肉が願っていることばかりになりました。肉の欲求は、それ自体は悪いものではありません。神の設けられている範囲の中で楽しむことは、むしろ喜ばしいことです。夫婦の性生活であるとか、食事であるとか、むしろ祝福されるものです。ところが、食べること、着る物、住む所など、そういったことしか生きている意味として持っていなければ、肉に支配されていると言えます。

2C 新しい誕生

それでイエス様は、ユダヤ人の指導者ニコデモに対して、「ヨハ 3:3 人は、新しく生まれなければ、神の国を見ることはできません。」と言われました。ニコデモは、肉のレベルで考えてしまったために何のことを言っているのか分かりませんでした。イエス様は言い直されました。「3:5-6 人は、水と御霊によって生まれなければ、神の国に入ることはできません。肉によって生まれた者は肉です。御霊によって生まれた者は霊です。」肉で生まれるだけでなく、神の御霊によって新たに生まれる必要があるということです。

そしてイエス様はニコデモに、モーセが青銅の蛇を掲げた話をされて、人の子が同じように木の上にあげられる時、すなわち十字架に付けられて、それを仰ぎ見る時に、死んでも生きることができると言われました。そして永遠の命を、御子を信じる者が得るのだと言われました。

3C 御霊による悟り

ニコデモのように、普通の人には、御霊に満たされて生きるということは、なんのことを言っているのかさっぱり分かりません。「I コリ 2:14-15 生まれながらの人間は、神の御霊に属することを受け入れません。それらはその人には愚かなことであり、理解することができないのです。御霊に属することは御霊によって判断するものだからです。御霊を受けている人はすべてのことを判断しますが、その人自身はだれによっても判断されません。」御霊に満たされるということは、生まれつきの人、つまり信仰を持っていない人には、あまりにも唐突で、変で、付いていけないことでしょう。けれども、御霊を受けている人にとっては、知性では分からなくとも、「アーメン」とすべてのことを判断することができます。

こうして、御霊に満たされるということは、神のかたちに造られた人間であれば、あるべき姿であるということです。そしてそれは、父なる神との親密な関係を持っていることであり、御霊の支配を受けていることです。

3A 御霊に導かれたイエス

次に、イエス様は、御霊に満たされていただけでなく、御霊に導かれていたところを見てください。「御霊によって荒野に導かれ」とあります。

1B 御霊に導かれる神の子ども

イエス様は御霊に導かれることにおいても、私たちの模範となってくださいました。「ロマ 8:14 神の御霊に導かれる人はみな、神の子どもです。」とあります。

2B 禁じられる御霊

御霊に導かれるとは、どういうことでしょうか？御霊が導こうとしておられることに敏感に反応している状態です。例えば、パウロが「イエスの御霊に禁じられた」という表現が使徒 16 章であります。「使 16:6-7 それから彼らは、アジアでみことばを語ることを聖霊によって禁じられたので、フリュギア・ガラテヤの地方を歩いて行った。こうしてミシアの近くまで来たとき、ビティニアに進もうとしたが、イエスの御霊がそれを許されなかった。」禁じるという強い言葉が使われるほど、パウロはアジアで御言葉を語ろうと決めていたのでしょう。ビティニアに進もうとしていたのでしょう。ところが、御霊がそれぞれの道に行くことを禁じられました。

つまり、御霊に導かれるとは、自分のしようとしていることが、突如として妨げられたとしても、そこに神の御手があることを認めることです。自分の計画をもって自分の道を決めるのではなく、たとえ自分の願いや決めたことがどれほど良いように見えても、それでも神が介入して止めさせたのかもしれないと、その場で認めるということがあります。つまり、主権者、また、主導者は御霊であり、自分でないということ。

3B 霊の戦い

そして、本文で驚くことは、続きを見ますと「**四十日間、悪魔の試みを受けられた。**」とあることです。御霊の導きを受けて、悪魔からの試みを受けているのです。つまり、御霊の導きとは、それによって霊の戦いがなくなるということではありません。むしろ、御霊の導きによって、霊の戦いの最前線に立たせられることもあるのです。

そこで私たちは、主ご自身を選び取る訓練を受けます。ペテロがイエス様から、「これらのものより、わたしを愛していますか？」と尋ねられました。三度、尋ねられました。それは、自分のしていることや、持っているものが無くなっても、それでも神を第一に愛しているかが試されているのです。ヨブがそうでした、神の許しの中でサタンが持ち物を奪い取り、皮膚までもサタンが打つことを許されました。そしてヨブは忍耐しましたが、そこで神への愛が試されていたのです。

4A 御霊の力を帯びたイエス

こうしてイエス様は御霊に満たされ、次に御霊に導かれました。そして次に、悪魔からの誘惑を受けられた後に、14 節、「**イエスは御霊の力を帯びて、ガリラヤに帰られた。**」とあります。御霊の力を受けられました。これが、私たちのあるべき姿です。御霊に満たされて、御霊に導かれ、そして今度は御霊の力を受けるのです。

1B 主への奉仕

私たちは、主に仕えるにあたって、一つ忘れていることがあります。「御霊の力を受ける」ことです。ある方がこんなことを話してくださいました、「奉仕って、怖くなることもある。どんな動機でそれを行っているか？ということだ。やろうと思えば、簡単に出来てしまう。けれども、動機によってはいつの間に、牧師は、何を偉そうに・・・などと、心がいつの間にか高ぶって、サタンの囁きさえ聞こえて来る。」とても大事なことです。それは、いつもしていることであつたり、何かできそうなことだからやっている時に、それは肉の力でやっていることが多いからです。御霊に満たされて、心が主に向いていて、それでいて、御霊の力でようやく、あることを主に対して行なうことができます。

コリント第一 12 章には、「12:3 聖霊によるのでなければ、だれも、「イエスは主です」と言うことはできません。」とあります。イエスが主であるというのが聖霊によるのであれば、同じように、主に仕える時も、聖霊がその力と賜物が与えるのだということが、コリント第一 12 章に書いてあります。それで、御霊によって賜物がそれぞれ与えられることが書かれています。御霊による力がなければ、決して何一つすることができないのです。いかがでしょうか？主に御霊の力で帯びるように祈られたことがあるでしょうか？

2B 肉による完成

私たちは、イエス様を受け入れる時に信仰で始まっているのに、その後も、ただイエス様のなされていることを信じていき、この方を信じていくことが務めなのに、そして主が御霊の力によって私たちを通して働かれる、ということなのに、いつの間にか自分たちでその働きを完成させようとしてしまいます。ガラテヤ人たちに対して、パウロが言いました。「ガラ 3:3 あなたがたはそんなにも愚かなのですか。御霊によって始まったあなたがたが、今、肉によって完成されるというのですか。」肉によって完成してしまおうとします。そして、なぜか、聖霊に頼り頼むのではなく、どれだけのことができるのかという、世の評価の仕方と変らない方法で押し量ろうとします。

パウロが言ったように、「ガラ 5:25 御霊によって生きているのなら、御霊によって進もうではありませんか。」ということですね。

5A 聖霊の待望

イエス様は、御霊に満たされ、御霊に導かれ、そして御霊の力を帯びて宣教を行われましたが、甦られた後にこのように命じられました。「24:49 見よ。わたしは、わたしの父が約束されたものをあなたがたに送ります。あなたがたは、いと高き所から力を着せられるまでは、都にとどまっていなさい。」この、父が約束されたものは御霊のことです。この方からの力が着せられるまで、エルサレムに留まっていなさい、とのことです。そして使徒の働きが始まります。使徒たちの働きを見ると、まさにイエス様が歩まれたそのものを見ます。ですから、イエス様を満した同じ御霊が、私たちを満すことができになります。イエス様を導かれた同じ御霊が、みなさんを導かれます。そしてイエス様に力を帯びさせた同じ御霊が、みなさんにも力を授けるのです。